

委員会審議		令和8年6月22日	
申 請 者		呼吸器内科医師	齋藤 武文
1		茨城県におけるレジオネラ症の感染リスク評価に関する研究	
研究の概要		概要 (1) 目的 本研究は詳細な遺伝子解析法を確立するとともに、疫学情報と照らし合わせて、感染源の推定を試みる。また、患者の疫学情報を解析することにより、重症化リスク因子を解明する。さらに集団感染が疑われた際には全ゲノム解析にて、集団感染の解明の一助とする。重症化リスク因子解明のための疫学情報の分析及び感染源推定のための遺伝子解析を実施することで、レジオネラ症の総合的な感染リスク評価を行う。 (2) 対象及び方法 本研究への参加患者は、レジオネラ症に感染者及び疑いのある患者すべてが対象となる。県内の医療機関から感染症法に基づくレジオネラ症の届出が出された患者及び協力医療機関においてレジオネラ症が疑われた患者を対象とする。届出患者においては、保健所が感染症発生動向調査事業に基づき検体採取と「レジオネラ症患者調査票（四類感染症）」による疫学調査を行い、衛生研究所へ搬送する。疑い患者においては、協力医療機関の医師が書面による研究の要旨・内容に関するインフォームドコンセントを行い、同意書により同意が得られた患者の検体（喀痰等）を採取するとともに、問診票に基づき疫学情報（年齢、性別、行動歴等）を収集し、衛生研究所へ搬送する。衛生研究所は、搬送された検体（喀痰等）について感染源を推定するために遺伝子解析（SBT法）を実施する。解析対象はレジオネラ属菌であるため、ヒト遺伝子が解析されることはない。また、提供された疫学情報（年齢、性別、行動歴等）について重症化リスク因子の分析を実施する。重症化リスク因子解明のための疫学情報の分析及び感染源推定のための遺伝子解析を実施することで、レジオネラ症の総合的な感染リスク評価を行う。さらに、集団感染が疑われた場合には、対象菌株に対して全ゲノム解析を行い、集団感染を見極める。並行して、本研究以前に感染症発生動向調査事業として収集したレジオネラ属菌を使用して、詳細な遺伝子解析法を確立する。茨城東病院としては、年間1例の参加を目標とする。※感染症発生動向調査事業においては、検体や患者情報について研究等に利用することについて説明し同意を得ている。 (3) 実施場所及び実施期間 場所：国立病院機構茨城東病院 検体検査実施機関：茨城県衛生研究所細菌部 実施期間：令和8年4月1日～令和13年3月31日	
判定	承認	本審査は全員一致で承認された	

る。